

今日の説教のポイント <創世記 14 章 1～24 節>

①旧約の信仰者たちがここから聞いたことは？

突然、アブラムとは関係ない諸王たちの戦争の話が出て来ます。読んで行くと、連れて行かれた甥のロトをアブラムが追跡し、敵を打ち破って救出したことが関係しているのです。これを記し残した人々は何を考えていたのでしょうか？ 聖書で初めて出て来る、親族が攻撃される経験。それに対してどう対応すべきかを示す意味を持っていたのでしょ。侵略や略奪は悪しき行為。身内がそんな目に遭った時は、身を犠牲にして救いに行け。そんな教えを考えて間違いないでしょう。しかし、だからと言って今の私たちが、「聖書も、理不尽な攻撃、特に同胞が侵略や略奪を受けたら、武器を取って奪回に行っているのだ」、などと考えていいのではありません。

②人間は戦争する、という事実！

この個所からまず教えられることは、人間は戦争をするという「事実」です。それは、他人のものを自分のものにしたい貪欲によるにせよ、あるいは、それに巻き込まれた身内を助け出さなくてはならない理由からにせよ、人間は戦わずにはすまない存在なのだという事実を示しているのです。しかし、そうだとしてもやはり、「時と場合によっては、武器を取って戦争してもいいのだ」、という結論でここを読み終えてはならないのです。なぜでしょうか？

③しかし、人間の事実が全てではない。神の事実が上！

「人間は戦争する」は一つの事実です。しかし、もう一つの事実があります。「神様は戦争を良しとされない」という事実です。「人間の事実」に対する「神の事実」です。大事なことは、神の事実は人間の事実を上回る、ということです。旧約聖書のここだけ読んだら、武器を取って身内を助けに行っている、で終わりです。しかし、新約聖書のイエス様まで含めて考えたなら、聖書は決して人間の事実に甘んじていいと教えてはけません。キリストを信じる信仰者は、「神が起こそうと思われればそれは起きる」という「神の事実」に基づき、戦い以外の方法で解決する道を探し求め、祈り、取り組んで行く「平和を実現する人々」(マタイ 5:9) となることが求められているのです。